

## 茶豆風味エダマメにおける作型毎の高品質化技術の確立

### 【研究概要】

江東地域では、農協直売所が開設されて以降、エダマメを直売所に出荷する生産者が増え、各作型を組み合わせ5月～11月まで出荷されている。食味が良い茶豆風味品種の生産が伸びているが、作型によっては、低温による減収や病害が多発し、特に半促成・抑制栽培では、3粒莢率が低下する。このため、生産者からは茶豆風味品種の作型毎に適した品種選定や安定生産技術の開発が求められている。

そこで、茶豆風味品種における作型毎の適性品種と栽培方法について検討し、莢数・3粒莢率の向上と作業性（草丈、倒伏性、在圃性）に効果の高い技術を確立することを目的に試験を実施した。その中で今年度は下記の3つの成果が得られた。

- (1) 9月上旬播種のハウス抑制栽培では「神風香、あじほこれ、ゆかた娘」が収量は多くなるが、低温により一部莢が黄化する。「あまおとめ、おつな姫」は低温による莢の黄化が他品種より少ないが、「あまおとめ」は、倒伏性がある。
- (2) 9月上旬播種のハウス抑制栽培における開花期のトンネル被覆は不織布や農POなどの資材を問わず収量を減少させる。「湯あがり娘」では、不織布と農POによる二重被覆により低温による莢の黄色は改善するが、多くの品種では効果がほとんどない。
- (3) 全量基肥施肥ではなく分肥にすることにより、草丈および莖長が低下する傾向にある。一方「湯あがり娘、ゆかた娘」は可販収量が増加する傾向にあり、これら含めた多くの品種で2～4粒莢数が増加する傾向にある。